



「いちゃいばネットワーク」通信

ライフプランの立て方

私たちのライフプランは、結婚、住宅購入時代の20、30代から、子供の教育資金や住宅ローンの返済がのしかかってくる40、50代、そろそろ老後の生活設計の準備を始める50、60代など、各世代によって抱えている課題が異なります。また、個人や家族の事情により、問題が多岐にわたることもあるでしょう。そこで今回は、20、30代の基本的なライフプランの立て方をご紹介します。

例

結婚間もない夫婦。すぐにも子供が欲しいが、マイホームも買いたい。できれば子供も2人ぐらい欲しくて、しっかりした教育も受けさせたい。まず、何から始めればいいでしょうか？

①収入と支出の把握

現在の手取りがいくらあり、その中から毎月何にいくら使っているのか、いくら貯金できているかを書き出してみます。

②ライフイベント表の作成

この場合、10～15年後を目途に作成します。そこには、「いつ」「何のために」「いくらのお金が必要になるか」を書き出します。明確な目的をつくることでお金を貯めやすくなります。

ライフイベント表（見本）

経過年数	ご家族の年齢				イベント	教育費	住宅費
	夫	妻	子供1	子供2			
現在	28	27					
1年後	29	28	0		第一子誕生		
2年後	30	29	1				
3年後	31	30	2				
4年後	32	31	3	0	第二子誕生		
5年後	33	32	4	1	第一子幼稚園入園	60万	
6年後	34	33	5	2		50万	
7年後	35	34	6	3	第一子小学校入学	40万	
8年後	36	35	7	4	第二子幼稚園入園	90万	
9年後	37	36	8	5	住宅購入	80万	頭金+諸費用
10年後	38	37	9	6	第二子小学校入学	70万	
11年後	39	38	10	7		60万	
12年後	40	39	11	8		60万	



これを見ると、子供の教育費や住宅購入などで、今後大幅な出費が予想されます。その為にも、今が一番貯蓄できる時期にあるので、強制的な貯蓄（給料天引きや自動積立）などを利用すると良いでしょう。

③住宅資金

購入する際の頭金の目安は価格の2割です。それに1割程度の諸費用がかかりますので、1,000万円の家を建てたい場合には、自己資金は300万円程度必要になります。

④子供の教育費

公立で大学まで進学させる場合、約800万円かかるといわれています。私立ならその2倍程度です。教育費の準備方法としては、教育ローンや奨学金の利用をお勧めします。

⑤生活費

日々の生活に必要なお金を把握して、無駄遣いを減らすことが大切です。子供が生まれたり妻が一時的に働けなくなるので、できれば夫の収入で生活できる工夫が必要です。

※ 2人世帯の標準生活費は1ヶ月約19万円です。（人事院月報より）

最後に・・・

一度立てた計画を見直さないでいると、だんだん実情にそぐわないものになってきます。その後は、出産、住宅取得の状況にあわせて見直しをすることが大切です。